

広島大学短期交換留学（HUSA）プログラム 派遣留学報告書

	記入日	平成 28 年 7 月 1 日		
所属学部・研究科	文学部 人文学科 三年次（留学開始時点）			
留学先大学	北京師範大学（国名：中国）			
所属学部・学科等名	漢語文化学院			
在籍身分	語学留学生			
留学期間	平成 27 年 8 月 29 日～平成 28 年 6 月 16 日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類： X1			
	ビザ申請先： 中華人民共和国駐福岡総領事館			
	取得方法、提出書類： 大使館に直接行き、パスポート、入学許可証、jw2020 表（中国の大学から支給される）、 照明写真、を提出した。			
	手続きに要した日数： 一週間程度			
その他必要な 事前手続き	大学ホームページでの寮の予約			
出国年月日	平成 27 年 8 月 29 日			
経路	広島国際空港→上海浦東国際空港			
現地での出迎え	有り 北京師範大学日本人会が北京国際空港の第3ターミナルまで来てくれて、バス で大学まで移動			
到着後オリエンテーションの実施状況・ 期間・内容	入学手続き終了後、北京師範大学日本人会による学校生活などに関するオリエンテー ションがある。			
帰国年月日	平成 28 年 6 月 23 日			
経路	天津国際空港→関西国際空港			
2. 留学経費について				
所要 経費	総額		円	
	内訳	渡航費	約 3 万 7 千	円
		保険料	約 13 万	円
		教科書代(学費)	約 8000	円
		宿舍費	約 30 万	円
		食費	約 15 万	円
		その他（食費）	約 30 万	円

3. 授業について			
1 学期	9月上旬 ～ 12月下旬		
2 学期	2月下旬 ～ 6月上旬		
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	中国語で中国語の授業を行う。中国語レベルの低い順に 100. 101. 102. 201. 202. 301 (場合によっては 302 もある) とクラス分けされる。もしクラスのレベルが自分のレベルにあっていなければ変更も可能である。内容は読解、会話、リスニングがあり、102 以上のクラスからは新聞の授業もある。学部生の授業に参加することも可能。		
単位互換希望の有無	有		
学術面に関する後輩へのアドバイス	約 1 年という限られた時間の中で中国語のレベルをあげるためには、渡航前の準備学習が大事。また、授業において最初はほとんど聞き取れない状況が少し続くだろうが、クラスを下げるべきではない。		
4. 生活等について			
(1) 留学先の住居について			
住居の種類	前期：大学の寮 後期：アパート		
住居の広さ	約 m^2	同居人の有無	前期：1 人 後期：3 人
住居に附属する設備	前期：ベッド、シャワー、トイレ、机、金庫、洗濯機、テレビ、クローゼット 後期：ベッド、シャワー、トイレ、机、洗濯機、テレビ、クローゼット		
住居費	1 ヶ月当たり 前期：1650 後期：1700		
住居を決定した方法	前期：渡航前に行われる大学のホームページを通じたネット予約 後期：寮の予約に漏れたため、不動産屋に足を運び契約		
留学先での住居全般に関するアドバイス	北京師範大学の場合、留学生に対する寮の数が少ないため、2 学期目は寮の予約に漏れる可能性がある。(1 学期目は新入生のためほぼ確実に予約できる) そのため、2 学期目以降、学校外に住む学生も少なくない。		
(2) 医療について			
1 日以上入院を要する病気・怪我等を	しなかった		
入院した場合	により 日入院		
留学に当たり保険を	掛けた		
掛けた場合	<input type="checkbox"/> 日本		
掛け金は	11 ヶ月 約 13 万円 補償額 死亡 2000 万円, 入院 1 日 円 その他 ()		
留学前後での予防接種の必要の有無	無		
有の場合、その種類、回数、費用、受けた医療機関名			
日常的な健康について不安が	あった。 喘息持ちであるため、PM2.5 に対して不安があった。		
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	北京には海外旅行保険に加入している限りで、診察無料、日本語対応可、交通費支給の病院があるため、安心して治療を受けることができる。		

留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	生水を飲まない。 PM2.5 がひどい日は外出しない、またはマスクをつけ行動する。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
詐欺の可能性があるので、安易に旅行ツアーに参加しない。 駅前でタクシーのキャッチに乗らない タクシーを降りる際に、偽札と本物のお金をすり替えられる可能性がある。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 31 年 3 月	(当初の卒業予定年月 平成 30 年 3 月)
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	新卒で卒業するため	
現在の状況および今後の予定・進路等	現在は引き続き大学で単位の取得中 進路は一般企業に就職の予定	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	4 年次の就職活動に間に合わせたい場合や、教育実習に参加する場合は留学期間を半年にするのもよい。	
6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
北京での生活は、基本的には安全である。しかし、交通ルールの違いなど、まだまだ日本人にとって危険に感じる場面もあるため、十分注意が必要である。 一方で、ウィーチャットペイや公共自転車等、日本よりも便利な点もたくさんあるので、現地のツールをうまく使うとよい。		

学習の概要に関する報告

1. 授業について

北京師範大学漢語文化学院では、学期の初めにクラス分けテストが行われる。テスト内容は筆記とリスニング、面接である。クラスは中国語レベルの低い順に100、101、102、201、202、301、(場合によっては302)と分けられる。授業内容は、読解、会話、リスニングがあり、102以上のクラスからは新聞を読む授業がある。100はピンインや発音から授業が開始され、クラスが上がるにつれて先生の中国語の話すスピードや内容もレベルが高くなる。クラスのレベルが自分と適していないと感じれば、クラスを変更することも可能である。また、授業は一週間に10コマ、一日に2コマずつある。その内1コマは自習時間で、出席は自由である。授業時間は90分であるが、日本と違い45分で10分間の休憩が設けられている。また、交換留学生は漢語文化学院の本科生(学部生)の授業も1学期につき1コマ履修することができる。

宿題はそれほど多くないが、たまに作文(400~800字程度)の課題が出されたりもする。また、クラスメイトと一緒にプレゼンをする宿題もある。宿題は基本的にはワークブックである。

中国語を学ぶクラスであるため、クラスメイトに中国人はおらず、中国人の友人を作る為には自ら積極的に中国人学生と交流する機会を見つけなければならない。

私は201クラスからのスタートであったが、初めの1か月程度はほとんど聞き取ることができず、何を話しているのか、宿題は何なのか全く分からない状態であった。しかし、一か月頃からだんだん慣れて始め、2学期目では先生の言っていることがほとんど分かる状態になった。この聞き取ることができない期間を短縮するためには、日本での事前学習が非常に重要である。また、聞き取れないからと言ってクラスを下げてしまうと、その学期における最終到達点が低くなってしまうので、最初は苦勞してもクラスは下げるべきではないと感じた。

日本人の多くは中国語を学習する時、中国語は漢字が使用されているためになんとなく意味が分かってしまう。それ故に発音まで丁寧に覚えることをしないということがしばしばある。しかし、ネイティブの中国語を聞くとき、頼りになるのは頭の中の発音の記憶だけであるため、日本において事前学習をする時は発音までしっかり学習することを勧める。

2. 日中交流会について

北京師範大学では数か月に一度日本語学科の中国人学生との日中交流会が行われる。漢語文化学院の学生は普段中国人の学生と交流する機会が少ないため、このような機会を利用して中国人の友人を作ることには非常に有意義である。ここで、自分のレベルと合った学生を見つけ、言語パートナーになってもらうことで普段先生にはきけないような中国語などを学習することができる。また、北京師範大学のみならず、様々な近隣の大学でも日中交流会が開かれているため、他の大学の交流会にも参加すると、より交流する機会が増える。さらに、日中の学生の交流機会を学生に提供する社会人の方もいるため、身の回りの情報に耳を傾けることが重要である。

3. その他

私個人の意見であるが、座学と外出のバランスは非常に重要である。座学だけしていても使う機会は少ないし、また外出だけでも知識は増えない。なので座学で得た知識を積極的に中国人との会話で使ってみるなどして、インプットとアウトプットのバランスを考えながら学習することが良いと感じる。

また、中国ではドラマや映画が無料で視聴することができるサイトが多数あるので、休日時間がある日はドラマなどを楽しみながらリスニングの練習をすることが中国語能力向上に繋がると感じた。

また、個人の経験では旅行も中国語能力を上げる一つの良い手段だと思う。全く知らない町で、頼れるものが自分の中国語だけ、という状況が上達に直結すると感じた。中国は日本と比べて高鉄(新幹線)や火車(電車)の交通費が安いために、中秋節や国慶節、長期休暇を利用して旅行することを勧める。

長期休暇中の過ごし方については、私個人の意見だと帰国する必要はないと感じる。長期休暇中に一時帰国してしまうと、それだけ中国語を使う機会が減り、忘れてしまう可能性すらある。また、中国を旅行したりする機会を逃すことは非常に惜しいことだと思う。なので、個人的には一時帰国は勧めない。

4. まとめ

総じて、北京師範大学の学習環境は非常に良いと感じた。先生を育成する学校だけあって、先生のレベルは非常に高く、また一般の中国人学生も非常にレベルが高い。留学では基本的に全ての行動が勉強になる。毎日が勉強であり、楽しく充実した留学生活を送ることができた。

生活に関する報告

1. 北京の環境・治安について

中国の気候は非常に乾燥しており、夏は湿度が低く過ごしやすい。最高気温もさほど高くなく、基本的には問題ない。また、冬は乾燥が激しく気温が非常に低いいため、対策が必要である。最高気温がマイナスの日もある。雨はほとんどふらず、1～2か月に一回程度で、雪も少ない。

空気については、PM2.5 が非常にひどい時がある。特に12月から1月にかけてが最もひどく、値は最大500を超える日もあった。(30までが身体に影響がなく、70以上で身体に悪影響を及ぼす) そのため、PM2.5 がひどい日は外出を控えるか、マスクをつけて行動するべきである。また、呼吸器系に持病がある人はさらに注意が必要である。

治安については、基本的には問題はない。しかし、どこの国でも同じように治安の悪い地域は確かに存在するので、一人の外出は避けるべきである。また、火車站の前のタクシーのキャッチに乗ってタクシーに乗ると、お金を余分にとられたりすることもある。さらに、道端で誘いを受ける旅行ツアーに安易に参加すると、また余分にお金をとられることもある。交通ルールも日本とは違い、まず車は右側通行であるため、違いに慣れなければならない。また、赤信号であっても車は右折することができるので、青色の横断歩道を渡る時も十分注意が必要である。

2. 食生活について

中国は外食産業が盛んであるため、基本的にどこに行っても中華料理屋はある。値段も安く、種類も豊富である。また北京では中国全国のご当地料理を食べることができる。自炊をしたければスーパーに行って食料を買うことができる。野菜や肉類は非常に安く、経済状況が悪い時などは非常に助かる。五道口などに海外の食材を売っているスーパーもあり、日本食を作ることも可能である。日本食レストランは多数あるが、値段は高い。生水は飲まないほうがよい。

3. 宿舎について

北京師範大学の宿舎で、交換留学生が住むことのできる宿舎は基本的に3種類あり、第三寮、新松寮、第二寮(2016～2017は工事中であったため、代わりに天方ホテル)である。第三寮は1日95元の1人部屋、85元の二人部屋があり、二人部屋でもセパレート式で個室がある。新松寮には65元、75元の二人部屋があり、個室はない。1学期目のルームメイトは基本的に自分では選べないために、外国人になる可能性が高い。二学期目の寮の予約は1学期目の後半に行われ、これはネット上で行われる。留学生が非常に多く、1分程度でほとんど満室になってしまうため、定刻にしっかり予約する必要がある。しかし、実際寮の部屋数が留学生の数に対して少ないため、寮の予約に漏れ、学校の外側に住む留学生も少なくない。外側に住む場合は不動産屋に行き部屋を探すか、ネットから部屋を探し契約する必要がある。パスポートとお金さえあれば部屋は借りることができる。契約時に家賃とは別に、仲介料(家賃1か月分)とデポジット(家賃1か月分)を支払う必要がある。

家賃の支払いについては、日本とは違い、学校の寮の場合入居して二週間程度以内に1学期分の家賃をすべて払う必要がある。2学期目も同様である。そのため、渡航の際は現金で多めにお金をもって行く必要がある。外で家を借りる際は家賃を最低3か月分払ってからの入居になる。

長期休暇中の学校の寮の家賃はかなり高くなり、1日120～140元程度になる。そのため、経済状況を見て寮に住み続けるか、一時帰国するか考える必要がある。

4. 送金について

日本から中国に送金する方法はいくつかあるが、基本的には日本の銀行から中国の銀行への送金という形になる。送金が必要な時は事前に銀行口座を作る必要がある。早い段階で銀行口座を作る必要がある場合は必ず入学登録を終了する前に作る必要がある。なぜなら、登録の最終段階で入国管理局にパスポートを3週間程度預ける必要があり、また口座の開設にはパスポートが必要だからである。また口座開設には電話番号も必要である。ビザの種類によっては口座開設できない銀行もある。送金には数日かかる。

5. その他

携帯については、日本で使っている携帯がシムフリーの場合新しく携帯本体を購入する必要はない。シムロックの携帯であるなら、中国のシムカードを使うことができないため、中国の携帯を購入する必要がある。シムカードは入学登録手続きの会場で購入することができる。(1年契約で、通信料は1か月3GB。年間200元)

病院に関しては、海外旅行保険に入っているという条件で、無料治療、日本語対応可、交通費支給の病院がいくつかあるので、安心して治療を受けることができる。

クレジットカードについては、キャッシュ機能とクレジット機能両方のついた銀聯カードを作っていくことを勧める。外国ではどのような金銭トラブルが発生するかわからないため、保険として作っていくと心強い。